

Medical News

基本理念

私達は、患者様とその御家族の立場に立った医療の推進に努めます

新任医師のご紹介

はじめまして。6月1日付で国立病院機構高松医療センターに赴任してまいりました二見仁康と申します。

前任地の国立病院機構東埼玉病院では呼吸器内科に属しており、肺がん、肺結核、びまん性肺疾患、その他の呼吸器疾患を中心に診療していましたが、それまでは長く東京の築地にある国立がん研究センターの研究所に勤務しておりました。もともと、病因を究明するか治療法の開発に興味があったため、研究医の道に進んでいったのでありますが、1981年に岡山大学を卒業後、国立東京第二病院（現在の国立病院機構東京医療センター）での研修医を終えた後は、肺がんを中心としたがんの研究と臨床に携わるようになりました。国立がんセンター（現在の国立がん研究センター）の内科レジデントをかかわりに、香川医大第一内科（現在の香川大学医学部・血液・免疫・呼吸器内科学教室）での勤務を経て、米国NIHの国立がん研究所留学後は、1990年に国立がん研究センターに新しいがん薬物療法の開発をミッションとして着任しました。

国立がん研究センターでは研究所にて細胞内情報伝達と血管新生をがん治療の標的とする研究を開始しましたが、当時はまだ分子標的薬の黎明期であり、癌の分子病態的研究として興味あるテーマであるものの、まだまだ臨床応用への道のりは遙か遠くに感じられました。しかしながら、分子生物学の進歩とあいまって、現在では、周知のごとく癌の治療薬として大きな役割を担っています。

並行して、肺がんの新奇な遺伝子変異について探索していたところ、肺小細胞がんにはRETというがん遺伝子の変異を発見したことが契機となり、胚細胞におけるRET遺伝子変異が原因である遺伝性腫瘍の多内分泌腫瘍2型の遺伝子診断に関する研究をすることになりました。その流れの中で、厚生労働省の『遺伝子解析研究に付随する倫理問題等に対応するための指針』作成の立ち上げに参加することになり、医学の進歩に伴う倫理的問題の解決点を見つけることの難しさを痛感させられました。なお、この指針は現在では文部科学省・厚生労働省・経済産業省から出されている『ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針』に改正されています。

国立がん研究センターでは、がんの分子病態的解明と分子遺伝学的研究が臨床に結びついていく過程を体験させて

いただいていたのですが、初心にかえって臨床の前線に帰るべく、心機一転し2013年に前任地にて呼吸器内科医として診療させていただくことになりました。そして、この度、縁あって香川県に勤務することになりました。

30年ぶりに生まれ故郷に帰ってみると、香川はすっかり様変わりしており、高松市周辺の道路、大店舗の充実ぶりには驚かされました。東京在勤中は国立がん研究センターのある築地周辺で暮らしていましたが、築地市場移転後はどうなるかわかりませんが、意外とこちらは変化に乏しく、高松市周辺の変わりようには比ぶべくもありません。また、30年前当時は創設期の香川医大に勤務していた頃でもあり、諸先輩、同僚、後輩の先生方が、そして研修医として香川医大卒業一期生、二期生が忙しく昼夜を徹して臨床と研究をされていたことが懐かしく思い出されます。現在では、教授、大学病院もしくは市中基幹病院の幹部として、あるいは開業されて活躍されており、隔世の感があります。今後、旧知の先生方ともお会いできる機会が多くなることを楽しみにしています。

高松医療センターでは、呼吸器疾患を中心とし内科全般を視野に入れ、患者様が病気を抱えていても楽しく快適な日常生活を構築できるような診療をしたいと考えています。当医療センターの小高い丘の美しい田園風景に囲まれた環境を生かした何か新しい医療サービスも提供できないかと考えている日々です。香川県の医療事情に不慣れなこともあり、今後多くの方々にいろいろと教えていただくことも多いかと思いますが、何卒よろしく願いいたします。



内科医長

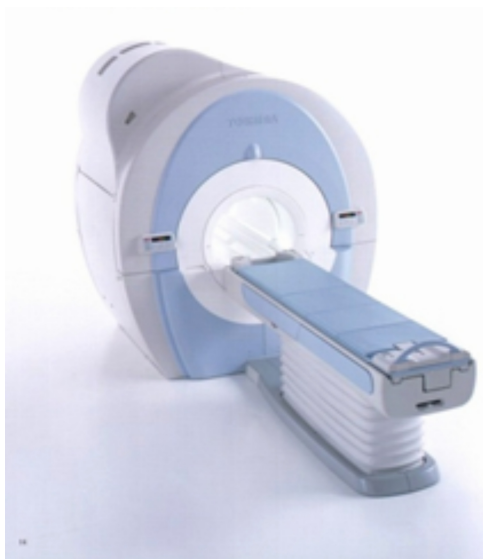
二見 仁康

岡山大学医学部 昭和56年卒
 医学博士
 所属学会
 日本内科学会
 日本呼吸器学会
 日本呼吸器内視鏡学会
 日本肺癌学会
 日本癌学会
 米国癌学会 (AACR)
 米国臨床腫瘍学会 (ASCO)

画像診断検査のご案内

当院では先生方からのご紹介による画像診断検査を行っております。以下の画像診断機器のご利用について、地域医療連携室にてご予約を承っております。放射線科とも連携し、予約状況によっては当日の検査も承っております。ただし、当院では放射線科医が常駐しておりませんので、画像所見につきましては毎週水曜日に所見を作成し、郵送にてご紹介頂きました先生方のところへお送りさせて頂いております。

MR I 検査



1.5T EXCELART Vantage Atlas

当院のMRI装置は検査時のパルス音も静音化し、非造影による血管描出技術やソフトで軽いコイルを使用するなど、患者様の検査時にかかる負担軽減に努めております。

ソフトウェアも多彩機能を装備し各症例に対応する撮像シーケンスを施行できます。電子カルテ導入、PACS更新と合わせ、安全で効率良く画像情報を提供できるようになっています。また撮像シーケンスは、ルーチンを設定し行っておりますが、必要な撮像方法については紹介状にてご指示頂ければ対応致します。

(ルーチンシーケンス)

頭部 横断像にて (FLAIR、DWI、T1、T2)

頭部+MRAでは頭部のMRAのMIP像を追加

腰椎横断像にて (T1、T2) 矢状断にて (T1、T2) 腹部横断像にて (T1、T2)

冠状断 (T1、T2) にて息止め撮影また、息止めできない場合は、T2のみになりますが呼吸同期にて横断と冠状断像の撮影になります。

C T 検査

64列CTにより、高速、精密撮像が可能です。例えば胸部の撮影では、40cmを約9秒でスキャンができ、患者様の呼吸停止の負担を軽減できます。整形領域における骨性変化の診断にも有用で、3Dデータより画像再構成を行い様々な画像を提供致します。



64列MDCT 東芝Aqilion64

画像診断検査のご予約は地域医療連携室まで

TEL:087-841-2162

FAX:087-841-2178



独立行政法人 国立病院機構

高松医療センター

〒761-0193

香川県高松市新田町乙8

TEL:087-841-2146 FAX:087-841-2178

URL <http://www.takamatsu-mc.jp>

編集後記

先日、自身の腰痛のため当院のMRIで検査を受けました。診断名は軽度の腰椎椎間板ヘルニア…。検査中、思った以上に静かで危うく眠りに落ちるところでした。身をもって体験することは出来たのですが、腰痛は……アツタツ。

発行責任者:病院長 細川 等 編集責任者:地域医療連携室